

川崎市議会議員 いわくま ちひろ 市よ、財源を語れ!

民主みらい
川崎市議団
連載No.75

7月下旬、川崎市議会では約10年ぶりに「**新たな総合計画に関する全員説明会**」が開催され、民主みらい会派の代表として質疑に臨みました。

10年、実施計画4年の3層から成り立ちます。また、本市の最高規範である自治基本条例に基づき策定することになっています。

平成26・27年度、2か年を要して策定されている「**新たな総合計画**」ですが、この度、市より「**素案**」が示されました。

まず、「**総合計画**」とは、自治体が策定する最上位の計画であり、行政運営の基本的な指針となります。その対象期間は長期に渡り、川崎市の場合は、基本構想30年、基本計画

その中で、一番懸念するのは、今後の財政収支推計です。見通しが極めて楽観的なのです。市は、昨年末の方針では、「**厳しさの続く財政**

状況」として、新たな事業に取り組むことや現行のサービス水準を維持することも困難との認識を示して

しましたが、今回の素案資料の中では、それらが散見されず、平成31年度には、収支不足が解消するという見込

みを示しています。しかし、**中学校給食関連のインフラ整備だけでも推計35億円になり、年間のコストは22・6億円に上**

ります。また、小児医療費の助成、待機児童対策、老朽化に伴う市庁舎の建て替え、羽田連絡道路の新設、南武線連続立体交差化事業、横浜市営地下鉄3号線の延伸など、将来予測される大型事業の予算規模の全体像は未だ明確ではありません。

ビルド（立ち上げる）する事業については、あれもこれも散見されませんが、スクラップ（整理・廃止・統合）する事業については曖昧さが目立ちます。

今回は、新たな総合計画素案を議論する議会でしたが、12月議会では、本事業が議決案件となります。市には、それまでに財政的枠組みや行財政改革の内容についてしっかりと示して貰わなければいけません。



川崎市議会議員 ちひろ
いわくま千尋